

剣道部、玉竜旗で16強 部活動報告 仲間たちと共に

平成23年も多くの部が県大会に進み、日頃の成果を発揮しました。中でも山岳部は九州大会・インターハイに出場。九州大会では2位入賞を果たし、水泳部も前年に引き続き九州大会に出場するなど活躍しています。剣道部(男子)は7月の玉竜旗大会でベスト16入りする快挙を成し遂げました。また、福島県で開催された全国高総文祭は3月の東日本大震災の影響を受け放送部門は「作品審査」のみとなりましたが、全国大会に作品を出品しました。また秋以降の新人戦等でも水泳部・陸上部・放送部が九州大会出場を果たし、演劇部は9年ぶりの県大会に出場しました。

水泳部 3年10組 森田大樹

7月、鹿児島での高体連九州大会に男子6人で出場しました。惜しくもインターハイ出場はかないませんでした。上萬樹生君が200メートル個人メドレーで決勝8位の輝かしい成績を残しました。また、9月の新人戦では12人の後輩が佐賀県での九州大会に出場しています。

このような仲間たちに恵まれて充実感の中で引退できたことを大変嬉しく思っています。後輩たちも来シーズンに向けて思い通りの結果を残してくれるよう願っています。

山岳部 3年4組 吉村拓哉

前年に引き続き、僕たちは九州大会、インターハイに出場することができました。どちらの大会でも感じたことは、他の代表校のモチベーションや技術力の高さでした。そのようなハイレベルな環境でメンバーとともに目標に向かって戦うことができたことは非常に良い経験になりました。大会期間はずいぶん大変でしたが、それ以上に楽しいことも多くありました。充実した最後の夏になりました。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございます。

剣道部 3年7組 松永拓磨

平成23年の夏は、僕にとって一生忘れることができないものになりました。それは玉竜旗高校剣道大会で、大将として筑紫丘の名を背負い2年半の努力を出し切ってベスト16まで勝ち上がることができたからです。しかし、ここまで勝ち上がったのも、指導して下さった先生やOBの方々、家族、そしてともに汗を流した剣友達のおかげだと心から感謝しています。この経験を生かし、今後は後輩たちが僕達を超えて活躍してくれることを期待します。

男の絆・光燦会 49人笑顔の再会

福岡リーセントホテルで、平成23年9月15日午後4時より、田中会長・加藤事務局長・白石校長の3名の来賓を仰ぎ開催された。東京3人、熊本1人、北九州1人の49人の参加となった。

「俺は要介護だぞ」と指1本を高々と挙げて当日参加の

「舞扇」で開かれた首都圏同窓会総会

中山利実君。30数キロまで体重が落ちて出席が危ぶまれた森住君も最後まで同席し、同ホテルの送迎バスで天神まで送られて無事帰って行った。石橋憲行代表幹事のもと新幹事体制での同窓会であったが、同ホテルは柳雅美幹事(学年監事)の出身母体とあって、現役で後輩の岩本支配人とのコンビもうまくいき、おいしい食事をともにし、旧

交を温めることができた。最後の男子学年とあって男の絆に結ばれた男気むんむんの会合であった。

昨年4月の東京支部の光燦会では黒田宏・宮崎龍輔の両君が当日の模様をビデオ編集してくれた。福岡でも、慣れない手つきで操作し、ほぼ全員の元気な姿を動画に収録できた。

(高3 高橋栄敏)

感動の白秋祭 高12回・古稀の旅

平成23年11月2、3日、高12回生は70歳の古稀を迎え、久しぶりの1泊2日の旅行を企画しました。参加者は31人(男性22人、女性9人)でした。今回は柳川市主催の「白秋祭水上パレード」への参加です。

当日は夕陽迫る水路は、提灯や行灯で飾られた「どんこ舟」で一杯です。私たちが2隻に分乗し、早速お待ちかね



柳川を満喫した高12回生の古稀同窓会

の宴会が始まりました。パレードは市民総出で、大人も子供も花火をたき、手を振っての歓迎。私たちが手を振り返し、感動の連続でした。川沿いのステージでは白秋ゆかりの曲の演奏、水面に行灯が映える中を2時間、水進しました。最後に花火の競演もあり、大満足でした。

翌日は柳川観光ボランティアの古賀氏の案内で、筑紫川昇開橋を見学、大川市の「古賀政男記念館」に行き、ギター伴奏で全員で歌った古賀メロデーは一生の思い出になりました。昼食では名物「うなぎのせいり蒸し」に舌鼓を打ち、全員、喜びのうちに「12会」の古稀祝いの同窓会を終了しました。

含めて五十四人(宿泊四十二人)で、久しぶりの再会を喜び合った。会は門司校長が「七十歳の平均余命は男性が八十五歳、女性九十一歳。まだまだ元気に過ごしましょう」とあいさつ。続いて田中義明・同窓会会長が「東京、大阪など各地の同窓会も盛んになっている。在校生も三年連続で最難関の東大理Ⅲ(医学部)に入るなど頑張っている」とOB、現

役の現状を報告。参加者の関心を集めた。次いで親睦会に移り、アルコールが増えるに従ってあちこちで談笑する姿が目立った。年相応の顔、ふけてみえる顔若く見える顔：歩んできた人生は異なるもの、みんな「青春時代」に戻って楽しいひと時を過ごした。なお、古稀は数え年七十のお祝いなので、それに従って行いました。

盛大にゴルフコンペ 平成23年10月19日、晴天の中、「第20回筑中筑高同窓会ゴルフ大会」が、138人の参加のもと小郡カンツリー倶楽部で開催されました。

20回となる記念の大会の当番は高校24回生。昨年5月の常任幹事会での概要説明を皮切りに実行委をスタートし、6月の定期総会で参加を呼び掛けました。大会の目標は東日本震災の被害者に対し、同窓会として義援金を贈るのを目的にチャリティーゴルフ大会と銘打ち、なるべく多く

の参加者を得て義援金を募ることでした。幸い中学17回から高校48回までの多くの方々も賛同して参加していただき、また記念品等のご提供もいただきました。

当日は参加者の義援金、シヨートホールでの罰金と、当番の「丘仁志会」からの寄付金を合わせて25万円が、当番幹事代表から同窓会の加藤事務局長に手渡されました。なお成績は、優勝・中村悦治氏(高23)、2位・安武宗昭氏(高21)、3位・藤野俊次氏(高23)でした。

盛大にゴルフコンペ

平成23年10月19日、晴天の中、「第20回筑中筑高同窓会ゴルフ大会」が、138人の参加のもと小郡カンツリー倶楽部で開催されました。

20回となる記念の大会の当番は高校24回生。昨年5月の常任幹事会での概要説明を皮切りに実行委をスタートし、6月の定期総会で参加を呼び掛けました。大会の目標は東日本震災の被害者に対し、同窓会として義援金を贈るのを目的にチャリティーゴルフ大会と銘打ち、なるべく多く



原鶴温泉であった高13回生の古稀同窓会

ゆったり湯治 高13回・古稀の旅

高校13回生(昭和三十六年卒)は平成23年10月23日、朝倉市杷木町の原鶴温泉「六峰館」で「古稀同窓会」を開いた。参加者は東京、大阪組を

東京と関西支部 同日に総会開催

平成23年の東京支部総会と関西支部親睦の集いは、ともに10月22日に開催されました。本部からは関西支部に田中義明会長・桐生元治副会長が出席し、東京支部には前川健太理事と加藤久嘉事務局長が出席しました。

東京支部は、例年学士会館で総会を開催してきましたが、参加者が増え会場が手狭となりましたので、今年は目黒雅叙園「舞扇」に変更し、参加

者は286人と盛会でした。基幹支部としての東京支部はこの総会で「首都圏同窓会」と名称を変更し、規模の拡大のみならず多様な独自事業の中で、絆の広がりを柱に活動していきます。

一方、関西支部は篠原哲朗支部長(高21)の転勤に伴い、養父規幸新支部長(高24)へバトンタッチ。今年の親睦の集い(総会)は、ホテルグランヴィア大阪で関西各地から65人の参加がありました。首都圏同窓会では同年の総会実行委員(高34)が福岡からも応援に駆け付けて運営に関わりました。その数46人。関西支部には平成24年の総会実行委員長が駆けつけるなど、総会実行委員会が基幹支部総会を積極的に応援してゆくことが定着化してきました。

東京支部は首都圏同窓会と名称変更

東京支部は、例年学士会館で総会を開催してきましたが、参加者が増え会場が手狭となりましたので、今年は目黒雅叙園「舞扇」に変更し、参加

支部長連絡会を開催

平成23年6月4日の同窓会定期総会の開催に先立って、同日13時半からホテルニューオータニ博多で支部長連絡会が開催されました。

支部長連絡会は今回が初めての開催でしたが、今後も定期総会当日に開催し、本部支部あるいは各支部間の連絡を図って行くこととしました。

(事務局)